



## コンセプト

今回 このデザイン選手権を考えるにあたり 私たちの考えた テーマは『家族とのコミュニケーション』です。

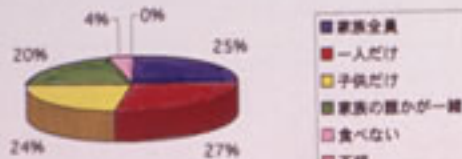
今 現状としては、仕事が忙しい時間がない などの理由で 家族とのコミュニケーションが、だんだんとへってきています。

食卓という場は、家族と コミュニケーションをとる上で、最も最適なのですが、忙しい時間に削られしまいがちです。

そこで 私たちは、家族そろって食事をしてもらうために  
こんな食卓をデザインしてみました。

## 家庭の食卓状況

朝食



左のグラフは、「誰と食事をとりましたか」

のアンケートの調査結果を、円グラフにまとめたものです。

この朝食時のグラフをみると、家族全員で食べているのは  $\frac{1}{4}$  程度で、一人で食べていないが、半分以上を占めているのが、現状です。

ここで ある家庭を例に上げてみた。

### Y男君の家庭事情

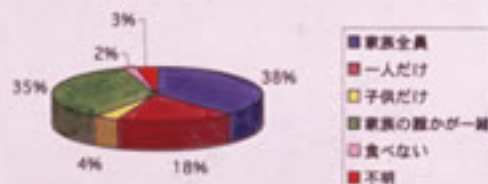
小学校三、四年生頃までは、みんなで集まって朝夕を食べていた。ここが父さん、ここが誰という座り方。母さんが主に作ってくれて、お婆ちゃんは手伝い。まだみんなで会話があって、食事の時に、学校の話とか日曜日はどこへ行くとか会話した。

両親が自営業を始めた小学三、四年頃から二人とも朝早くから夜遅くまで働いて、僕と兄と祖母と三人で食べるようになった。それから今まで、家族と一緒に食事したのは数えるほどしかない。兄とは喧嘩になるので殆ど会話がなくて、お婆ちゃんが作る食事は毎日同じものだった。家族一緒に食事したかったけれど仕事でしょうがないと思っていたし、そういう色々なことについても会話がなくなってからは話づらくなった。

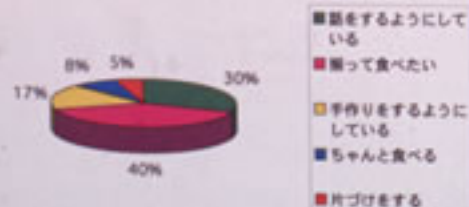
右は夕食のグラフです。

朝に比べて、「全員で食べる割合は増えたもの。一人だけで食べる割合も18%と高く、「家族全員で食べる」のは難しい様です。

夕食



今の食卓に望むこと



しかし、左のグラフによると70%の人が家族と食卓でコミュニケーションをとりたいと思っています

名付けて

# 食卓かい(?)

机が4分割されていて、家族みんなその部品をかばんとして利用する。家族みんながそろわないと机が完成せず、食事ができない。

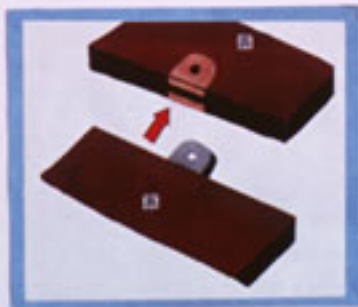
テーブルの厚みを生かしすきまに物が  
入るかばんにする。材質は木製のま  
ま。とても重い。

取っ手を付けたりランドセルをつけ、用途を  
変えられる。

また、一つ一つ色の違うテーブルを買うこと  
でパズルのよ  
うに、様々な配色が楽しめる。



人に合わせて形が、好みに合わせて色が  
自由に変えられて楽しめる





このテーブルを使う事により、家族が毎日そろって夕食を食べる事ができます。また他にも、場をかえて学校や、職場等にこのテーブルを持ちよる事により新たな食卓づくりをする事もできるのです。そして、その日の出来事等の会話をし、人としての感性をはぐくみ、豊かな関係をつくっていく事ができるのです。

確かにこの机が不便で、他の都合を全く無視し目的を1つしか見ていないデザインではあると思いますが、この机を市販化する事により人の眼に触れさせ、そこで、

「ここまでしないと家族は揃わないのか」と思わせる事が目的なのです。

つまり道具として利用する機能ではなく、道具として心に働きかける機能を考える事が目的なのです。机の存在事態が、その机と人との関係が私達のデザインなのです。

この机の皮肉った問いの投げ掛けによって家庭の食卓のあり方をもう一度みんなが考え直してもらえる事が私達の願いなのです。